



第1回JSTEシンポジウム(福岡)

セッション聴講者数・アンケート調査の集計結果

JSTEシンポジウム運営小委員会

令和2年3月

— 目 次 —

1. 第1回JSTEシンポジウム参加者数の概要	1
2. アンケート集計結果	2
2.1 所属機関の種別	2
2.2 所属機関の都道府県	2
2.3 会員種別	3
2.4 本年度(令和元年度)の交通工学研究発表会の参加の有無	4
2.5 シンポジウム開催を知った方法	5
2.6 セッションの満足度	6
2.7 今後のセッションに対する希望テーマ	9
2.8 講演資料のWebsiteからのダウンロードについて	10

1. 第1回JSTEシンポジウム参加者数の概要

■シンポジウム参加者数：369名（有料：312名，特別招待券利用：57名）

■交流会参加者数：133名

■各セッション聴講者数：

時間	第1会場(文系センター15F第5会議室)	人数	第2会場(文系センター15F第6会議室)	人数	第3会場(文系センター15F第7会議室)	人数	3会場合計
10:10 ～ 11:50	A-1 生活道路に関する検討小委員会 パネルディスカッション さあ、通学路からはじめよう！ 良事例から学ぶ生活道路対策における ハンブの使い方	37	A-2 道路の交通容量とサービスの質に関する 研究<基幹型研究> 研究発表・実務 報告・全体 討議 再考-道路の交通容量	65	A-3 八千代エンジニアリング㈱ 研究発表・実務 報告 フィンランドのMaaSとエストニアにお ける電子政府の実践内容に関する調査 報告	49	151
13:00 ～ 14:30	全体セッション<会場中央図書館1F多 目的ホール> 会長挨拶、基調講演、委員会活動紹介	216					216
14:45 ～ 16:25	B-1 自転車通行システムの整序化 <公募型研究> 研究発表・実務 報告・全体 討議 自転車の左側一方通行システムへのトラン ジションを考える	73	B-2 二段階横断施設の適用性に関する研 究<公募型研究> 研究発表・実務 報告 二段階横断施設の適用性に関する研 究	44	B-3 パシフィックコンサルタンツ㈱ 研究発表・実務 報告 ビッグデータを活用した交通計画	82	199
16:40 ～ 18:20	C-1 自転車通行を考慮した交差点設計の手 引小委員会 実務報告・全体 討議 自転車通行環境の良し悪しは“交差点” で決まる。	92	C-2 資格委員会 研究発表・実務 報告 TOP・TOEのススメ -交通技術資格を活用してよりよい交 通社会を！-	22	C-3 ㈱建設技術研究所 実務報告 交通工学を感じる世界の興味深い道路 のはなし	64	178
18:30 ～ 20:00	交流会(文系センター最上階スカイラウ ンジ)	133					133

第1回JSTEシンポジウム(福岡)第2日目【2019年12月10日(火)】プログラム 人数カウント

9:00 ～ 10:40	D-1 地元特別セッション 実務報告 九州における道路交通の新たな取り組 みと勤どころ	77	D-2 交通技術研究小委員会 研究発表・実務 報告 若手交通技術者の育成 -交通技塾の開催を通じて-	19	D-3 ㈱オリエンタルコンサルタンツ パネル ディス カッ ション 自動運転の社会実装を踏まえた今後 の課題と留意点	83	179
10:55 ～ 12:35	E-1 共同セッション 平面交差の計画・設 計・制御の研究<基幹型研究> 平面 交差点設計と交通信号制御-基礎編- 出版小委員会 研究発表・実務 報告 平面交差の計画・設計・制御 -より安全で円滑な平面交差の実現に 向けて-	67	E-2 ㈱道路計画 研究発表・実務 報告 道路交通現象調査における画像デー タの利活用	65	E-3 ㈱福山コンサルタント 研究発表・実務 報告 総合交通体系調査と福岡の現在と未来 -MaaS時代に向けて-	76	208
13:30 ～ 15:10	F-1 道路安全診断<展開型研究> 講演・事 例報告 道路安全診断小シンポジウム	61	F-2 ラウンドアバウト技術指針出版小委 員会 実務報告・全体 討議 日本のラウンドアバウト導入事例の経 緯と特徴	73	F-3 日本工営㈱ 研究発表・実務 報告 地域交通運営の『これまで』と『これか ら』	48	182
15:25 ～ 17:05	G-1 道路安全診断<展開型研究> パネル ディス カッ ション 道路安全診断小シンポジウム	31	G-2 交通事故リスクを活用した交通マネジ メントに関する研究<公募型研究> 研究発表・実務 報告 交通事故リスクマネジメント	48	G-3 ㈱長大 研究発表・実務 報告 交通技術とまちづくり	47	126

集計方法：事務局により、各セッション会場の聴講者数をカウント

■アンケート調査票の回収率

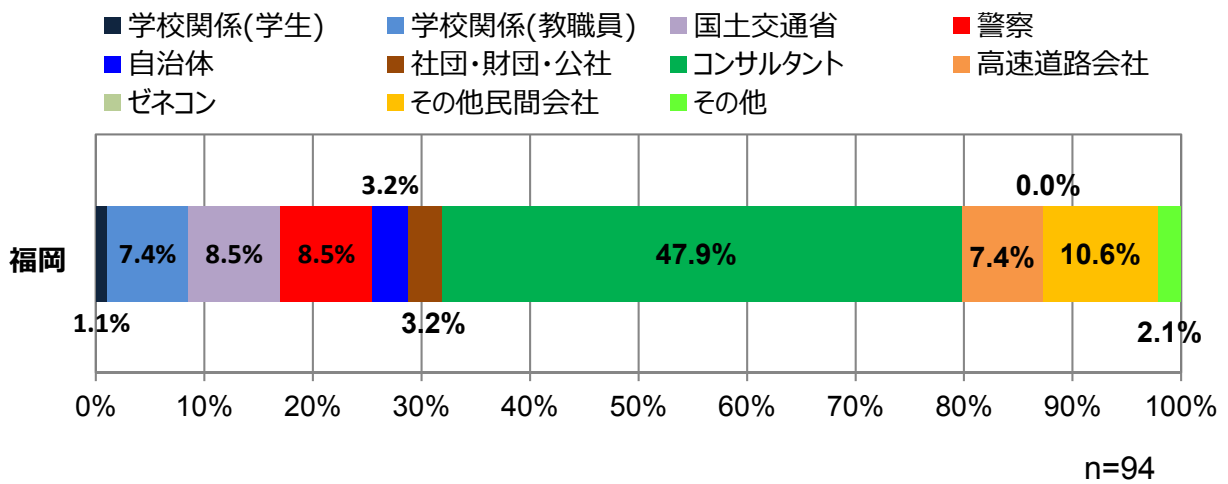
	参加者数 [人]	全体比 [%]	回答者数 [人]	全体比 [%]	回収率 [%]
正会員	138	37.4%	41	44.6%	29.7%
特別会員	131	35.5%	17	18.5%	13.0%
学生会員	4	1.1%	1	1.1%	25.0%
一般(非会員)	96	26.0%	33	35.9%	34.4%
全体	369	100.0%	92	100.0%	24.9%

2. アンケート集計結果

アンケート集計は、シンポジウム参加者数の約27.2%に相当する94名のアンケート回答者による記載結果から行った。

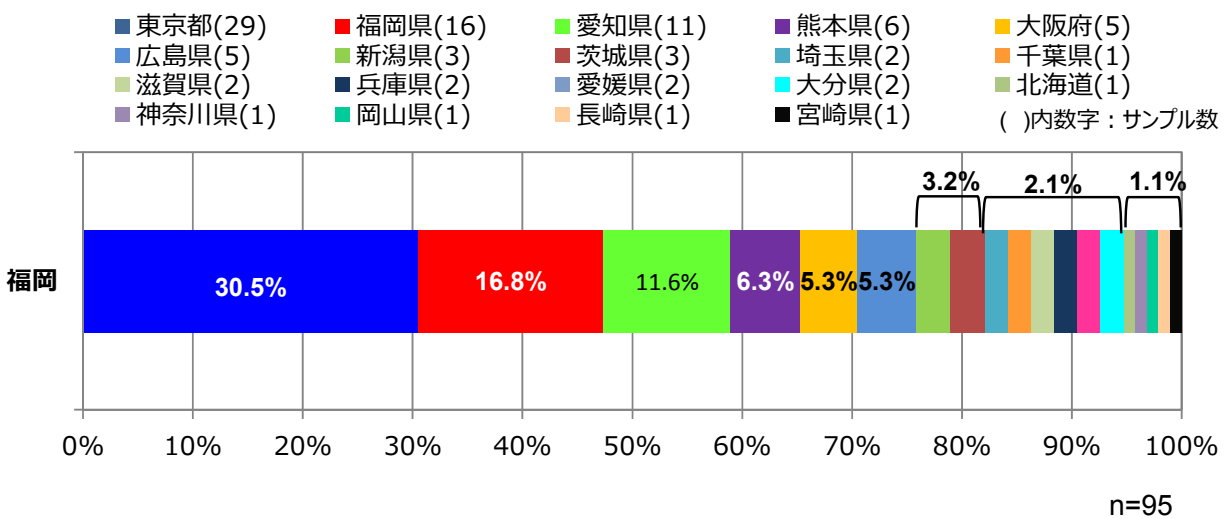
2.1 所属機関の種別

- ・ 最も多かったのは、約5割(47.9%)のコンサルタントであった。
- ・ 次いで、その他民間会社(10.6%)、特別招待が多い国土交通省(8.5%)、警察(8.5%)の順であった。



2.2 所属機関の都道府県

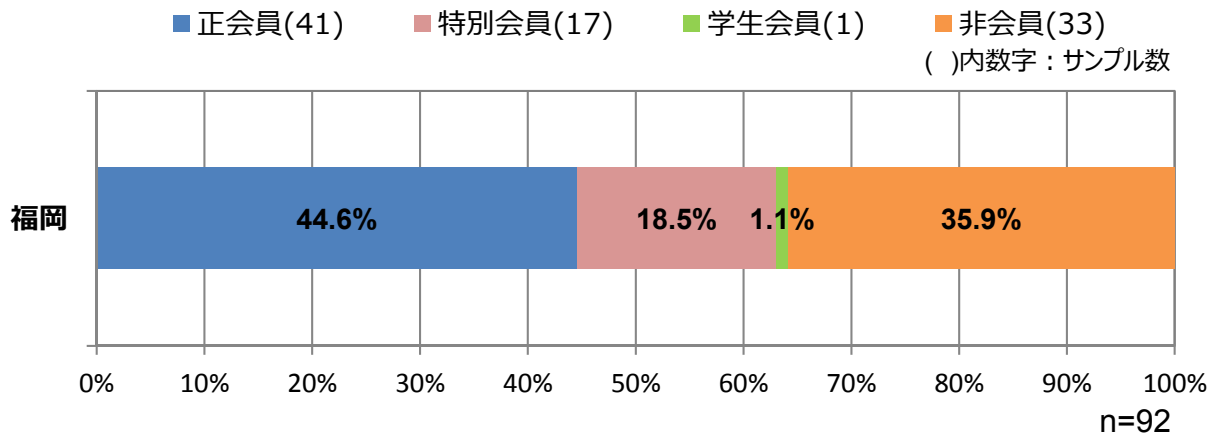
- ・ 最も多かったのは、約3割(30.5%)の東京都であった。
- ・ 次いで、地元の福岡県(16.8%)、愛知県(11.6%)、熊本県(6.3%)の順であった。
- ・ 地元九州の参加割合は、約3割(27.4%)であった(参加：福岡県、熊本県、大分県、長崎県、宮崎県)。



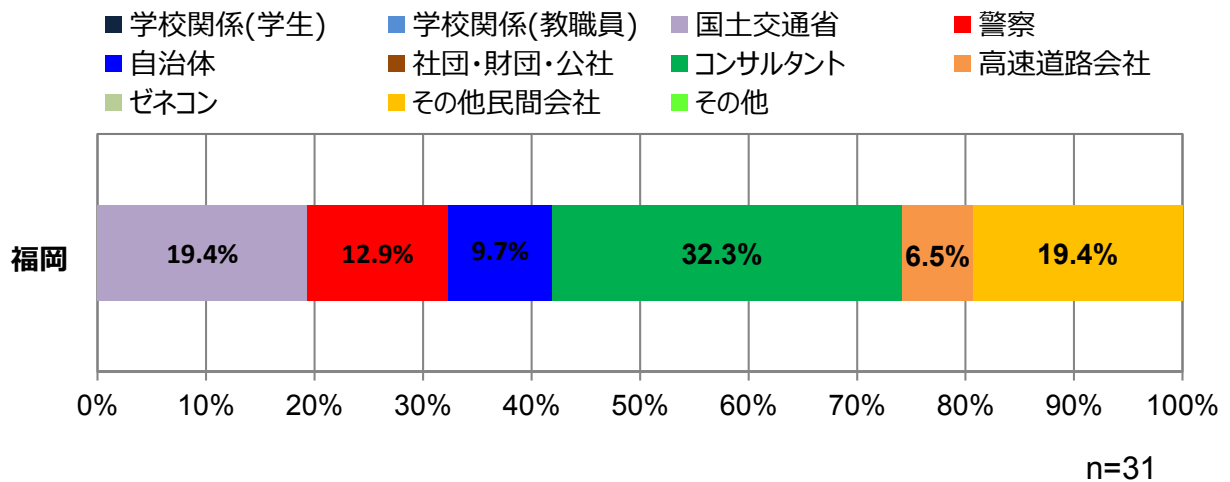
2.3 会員種別

- ・ 最も多かったのは、約5割(44.6%)の正会員であった。
- ・ 次に、非会員が約4割(35.9%)で多かった。
- ・ 非会員で参加が最も多かったのはコンサルタント(32.3%)であり、次いで特別招待が多い国土交通省(19.4%)，その他民間会社(19.4%)，警察(12.9%)であった。

■会員種別



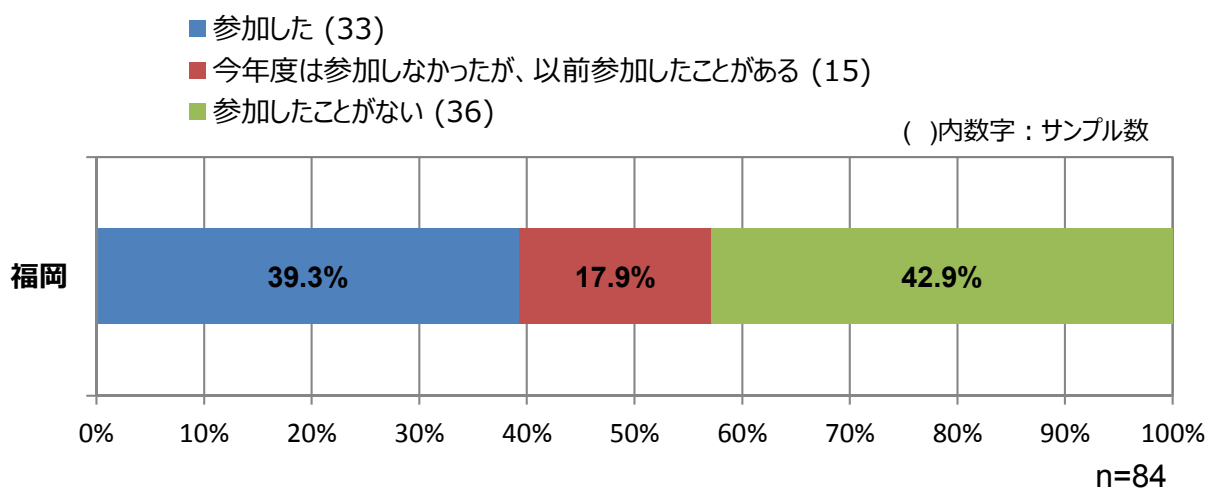
■非会員の所属機関の種類



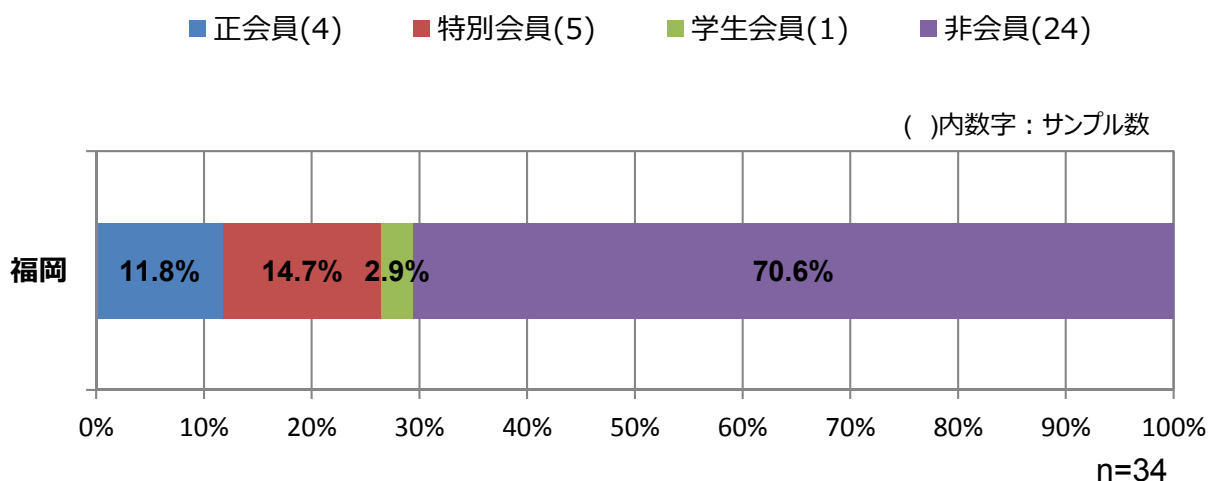
2.4 本年度(令和元年度)の交通工学研究発表会の参加の有無

- ・ 本年度の研究発表会とJSTEシンポジウムの参加が、約4割(39.3%)であった。
- ・ 研究発表会に参加したことがなく、JSTEシンポジウムへの参加が、約4割(42.9%)であった。
- ・ 研究発表会に参加したことがなく、JSTEシンポジウムへの参加の会員種別では、約7割(70.6%)が非会員であった。
- ・ また、研究発表会に参加したことがなく、JSTEシンポジウムへ参加した正会員と特別会員が約3割(25.5%)を占めた。

■本年度(令和元年度)の交通工学研究発表会の参加の有無



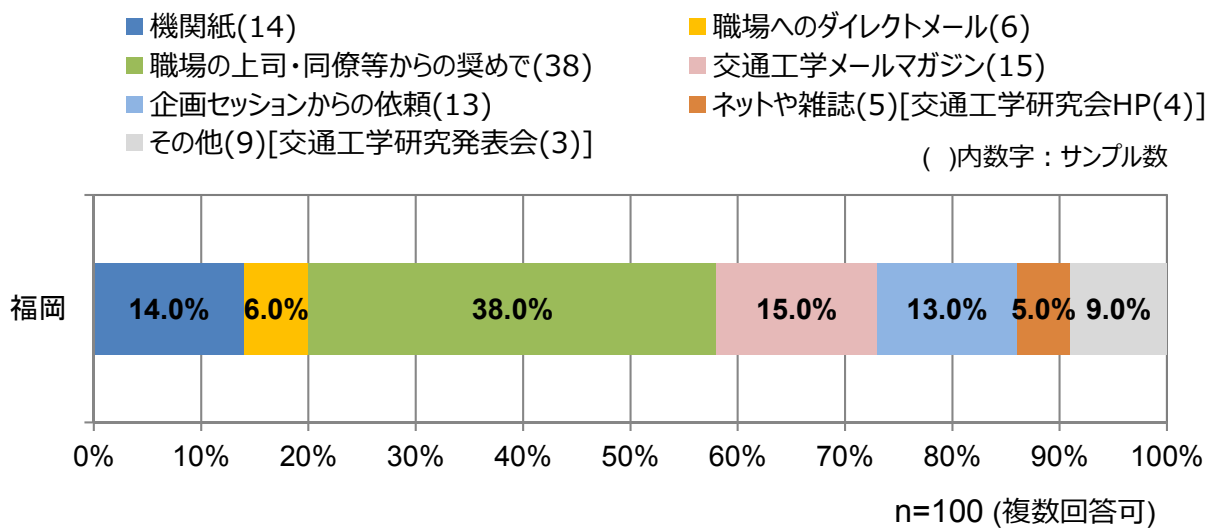
■交通工学研究発表会に参加したことない回答者の会員種別



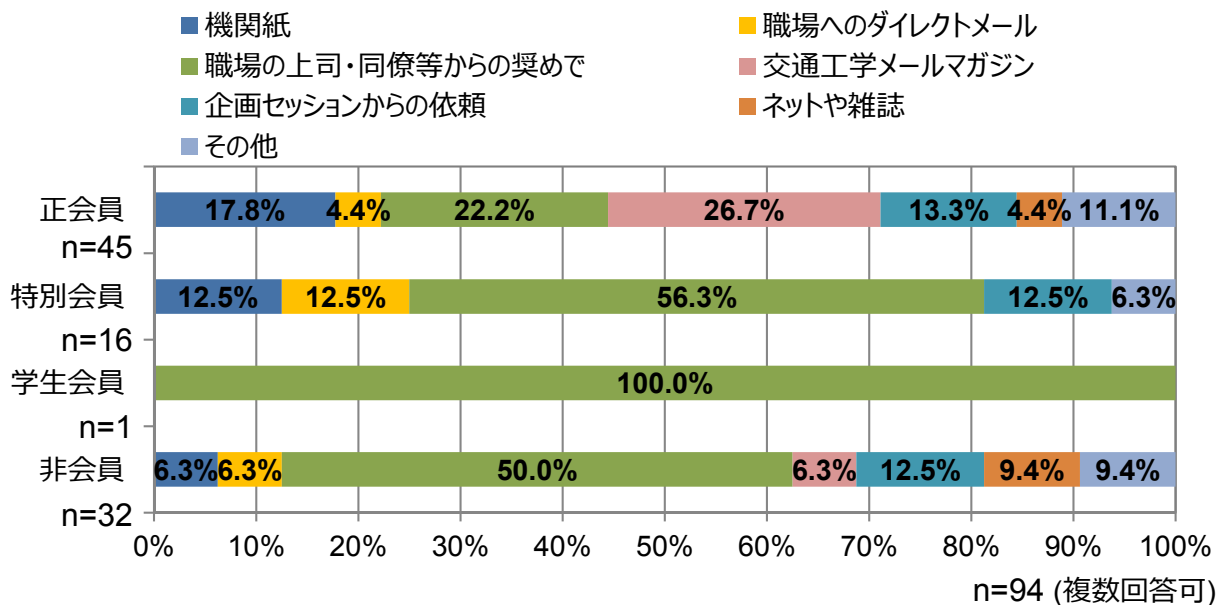
2.5 シンポジウム開催を知った方法

- ・最も多かったのは「職場の上司・同僚等からの勧めで」であり、約4割(38.0%)であった。
- ・次いで多かったのは「交通工学メールマガジン(15.0%)」、「機関誌(14.0%)」、「企画セッションからの依頼(13.0%)」の順であった。
- ・会員種別別にみると、正会員は「交通工学メールマガジン(26.7%)」、「職場の上司・同僚等からの勧めで(22.2%)」が多く(約5割)、非会員や特別会員は「職場の上司・同僚等からの勧めで」が5~6割を占めた。
- ・各会員種別とも、「職場の上司・同僚等からの勧めで」でシンポジウム開催を知った割合が高い傾向にあった。

■全回答者を対象としたシンポジウム開催を知った方法



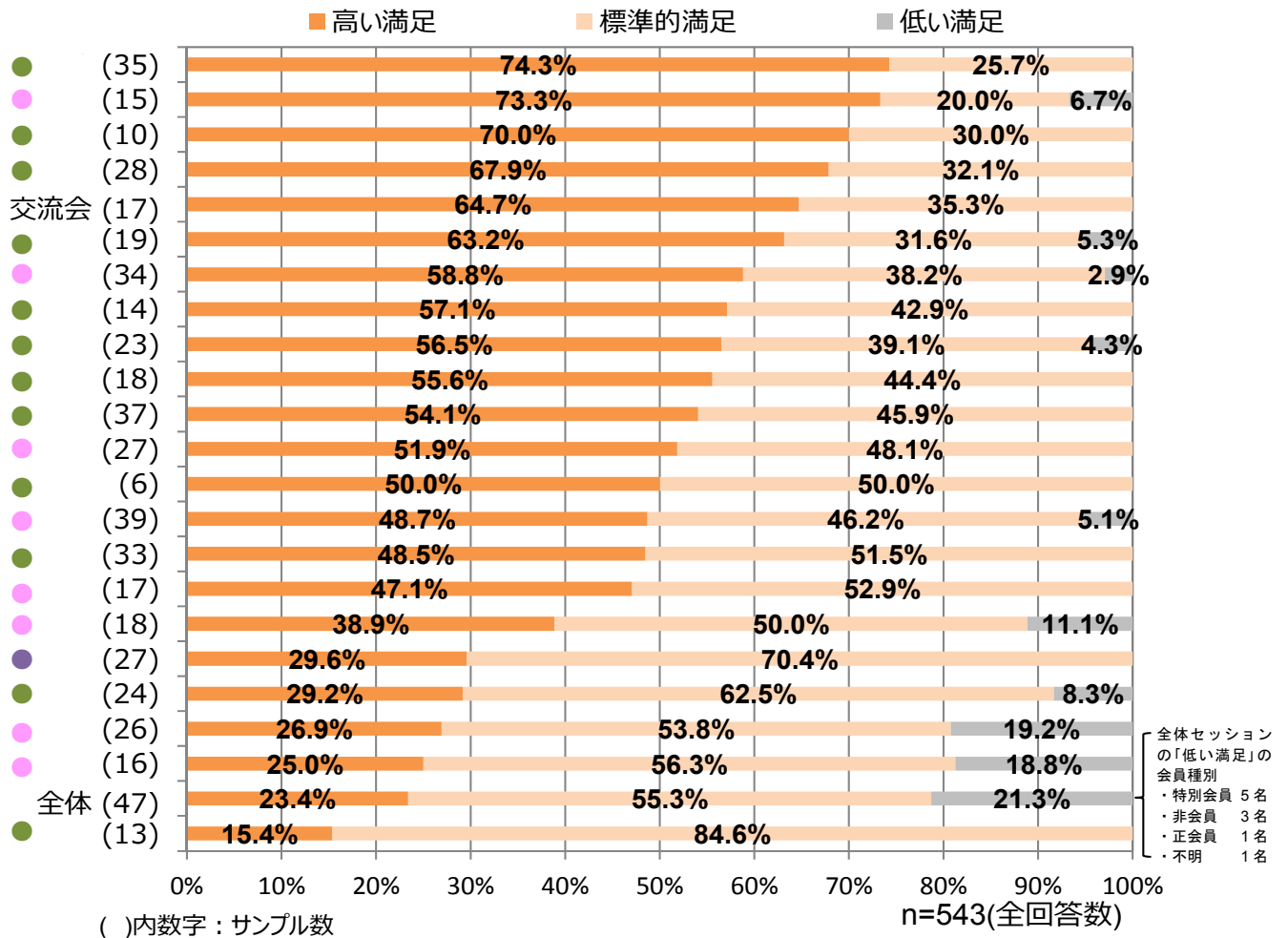
■会員種別別シンポジウム開催を知った方法



2.6 セッションの満足度

(1)セッション別評価(満足度の高い順)

- 各セッションとも、概ね8割以上は「標準的満足」以上の評価であった。



第1会場(文系センター15F第5会議室)		第2会場(文系センター15F第6会議室)		第3会場(文系センター15F第7会議室)	
A-1	生活道路に関する検討小委員会	A-2	道路の交通容量とサービスの質に関する研究<基幹型研究>	A-3	八千代エンジニアリング㈱
	さあ、通学路からはじめよう！ 良事例から学ぶ生活道路対策におけるハンプの使い方 全体セッション<会場中央図書館1F多目的ホール>会長挨拶、基調講演、委員会活動紹介		再考-道路の交通容量		フィンランドのMaaSとエストニアにおける電子政府の実践内容に関する調査報告
B-1	自転車通行システムの整序化<公募型研究>	B-2	二段階横断施設の適用性に関する研究<公募型研究>	B-3	パンフィックコンサルタンツ㈱
	自転車の左側一方向通行システムへのトランジションを考える		二段階横断施設の適用性に関する研究		ビッグデータを活用した交通計画
C-1	自転車通行を考慮した交差点設計の手引小委員会	C-2	資格委員会	C-3	㈱建設技術研究所
	自転車通行環境の良し悪しは“交差点”で決まる。		TOP-TOEのススメ -交通技術資格を活用してよりよい交通社会を！-		交通工学を感じる世界の興味深い道路のはなし
交流会(文系センター最上階スカイラウンジ)					
D-1	地元特別セッション	D-2	交通技術研究小委員会	D-3	㈱オリエントコンサルタンツ
	九州における道路交通の新たな取り組みと勘どころ		若手交通技術者の育成 -交通技塾の開催を通じて-		自動運転の社会実装を踏まえた今後の課題と留意点
E-1	共同セッション:平面交差の計画・設計・制御の研究<基幹型研究> >平面交差点設計と交通信号制御-基礎編-出版小委員会	E-2	㈱道路計画	E-3	㈱福山コンサルタント
	平面交差の計画・設計・制御 -より安全で円滑な平面交差の実現に向けて-		道路交通現象調査における画像データの利活用		総合交通体系調査と福岡の現在と未来 -MaaS時代に向けて-
F-1	道路安全診断<展開型研究>	F-2	ラウンドアバウト技術指針出版小委員会	F-3	日本工営㈱
	道路安全診断小シンポジウム		日本のラウンドアバウト導入事例の経緯と特徴		地域交通運営の『これまで』と『これから』
G-1	道路安全診断<展開型研究>	G-2	交通事故リスクを活用した交通マネジメントに関する研究<公募型研究>	G-3	㈱長大
	道路安全診断小シンポジウム		交通事故リスクマネジメント		交通技術とまちづくり

(2)高い満足度の理由

- ・ 高い満足度の理由をキーワードで区分すると、最も多い満足度の理由は「業務に近い」キーワードとなり、業務に直結する内容、現場の課題に対応する内容であったことなどから、高い満足度となったと考えられる。また、これに関連して高い満足度の理由として「具体的・実践的」も多かった。
- ・ 2番目の高い満足度の理由としては「最新の知見や動向」であり、新しい情報、知見などを知れたということであった。

(1/2)

No.	キーワード区分	高い評価の理由
1	実務に近い (18/49)	自分の業務に近い内容だったため。
2		低速車両を使った実証実験を計画しているが、どう対応していくべきか、方向性がわかった。
3		現場の課題に対して回答する形式(ケーススタディ)でわかりやすかった。会場への問いかけもあり、考えながらセッションに参加することができ、有意義だった。
4		実務に直結するセッション(交通容量、交差点改良)は実務に反映できる。スポンサーセッションは、コンサルの技術力をアピールする良い機会だと思う。小委員会での取り組み事項の動向を知ることができた。
5		身近な問題であるため。
6		現在の業務遂行の参考となると感じたため。
7		業務に直結する内容である。テーマに関係する専門家が分野に関わらず、それぞれの立場からパネリストとして構成されていた。
36		具体的な内容が多くて、実務に直結できると感じました。
8		業務と関係性が高い内容だった。
9		実務に直結する内容のセッションであり、今後参考とすべき点が多く勉強となった。
10		研究発表会との違いだと思いますが、実務に近い内容が中心でとても参考になりました。
11		実務上の課題・効果等について話を聞くことができたため
12		直接的に関連している業務に関する知見や見解が得られたから。様々な参加者からの質疑等が活発だった。
13		講演者及びパネリストから、有益な情報の報告があったから。
14		ビックデータを活用した計画は今後の道路計画、都市計画に非常に役立つと感じた。
15		実用的であり業務に活かせる内容が多かった。
16		ハンブの有用性について詳しく紹介頂いた。ビックデータの活用の可能性もヒントは頂いた。ケーススタディでいろいろ考えるのは有意義だったが、どれも応用編的な交差点でなかなか難しかった。
17	実務的な本音ベースのコメントが多く、道路安全診断のメリットが良く理解できる内容でした。最新の貴重な調査事例を知ることができました。	
18	最新の知見 や動向 (15/49)	知らなかった情報を知ることができた。
19		現在考えられている最新の考えを知ることができた。
20		若手技術者の現状やコンサルタント業界の変化を知ることができた。北部九州圏のPT調査報告は興味深かった。
21		「再考-道路の交通容量」については、一つの議題について多アングルの考え方(見解)がなされており、興味深かった。
22		最新の動向を知れてよかった。
23		(自転車環境)大変満足な内容で、普段聞くことのできない踏み込んだ内容まで聞くことができ、参考になった。
24		1つのテーマに対して、体系的な知見を得ることができたから。
25		自動運転やMaaS等、将来の道路施策の大きな項目の一つとなるであろうことについて最新の動向を聞いた。
26		あらゆる側面からMaaSへの取組みが分かった。
27		勉強になりました。新しい情報が少なかった。
10		参加した全てのセッションで最新の知見や動向について知ることができたのが良かった。
28		最新の研究成果を聞くことができたため
29		最新の動向が聞けたこと。パネラーの考えを聞けたこと。
30		道路の交通容量：最新の知見を得ることができた。
31	説明資料が分かりやすく、説明内容も聞きやすかったです。最新データの取扱いについての知見を得られて役立ちました。	

No.	キーワード区分	高い評価の理由
32	具体的・実践的 (7/49)	具体例に沿って、対策の考え方、検討手順等を発表されている点よかった。
33		具体的な事例を多数紹介して頂いた上、導入経緯等も合わせて紹介頂いたのは良かったと感じた。
34		話が具体的でわかりやすかった。ディスカッション形式の方が、より具体的になって面白い。
35		多様な事例で参考になった。
37		内容が実践的だった。
38		セッションのテーマがかなり特定されているが、今の課題に焦点が当たっており面白かった。
39		総括的な整理、具体的な分析・実践事例、活発な質疑・ディスカッション。
40	その他 (10/49)	前日に市内を見ていたので九州の取組み説明がよくわかった。研究発表会とは違った距離間で聴講でき、有意義だった。
41		ディスカッションがよい。低いセッションはない。
42		関心ある事項であったため。全て有益でした。
43		参加者が多いのに驚いた。
44		たいへん有益で、勉強になりました。
45		テーマの課題と留意点が明確であった。また、パネラーの方の理解度が高い。
46		議論・研究が固定されておらず、ライブ感があつた。
47		多くの話題をまとめて見られてよい。
48		自動運転では土木以外の分野の方の話も聞けたのは良かった。
49		福岡で行われたこと。

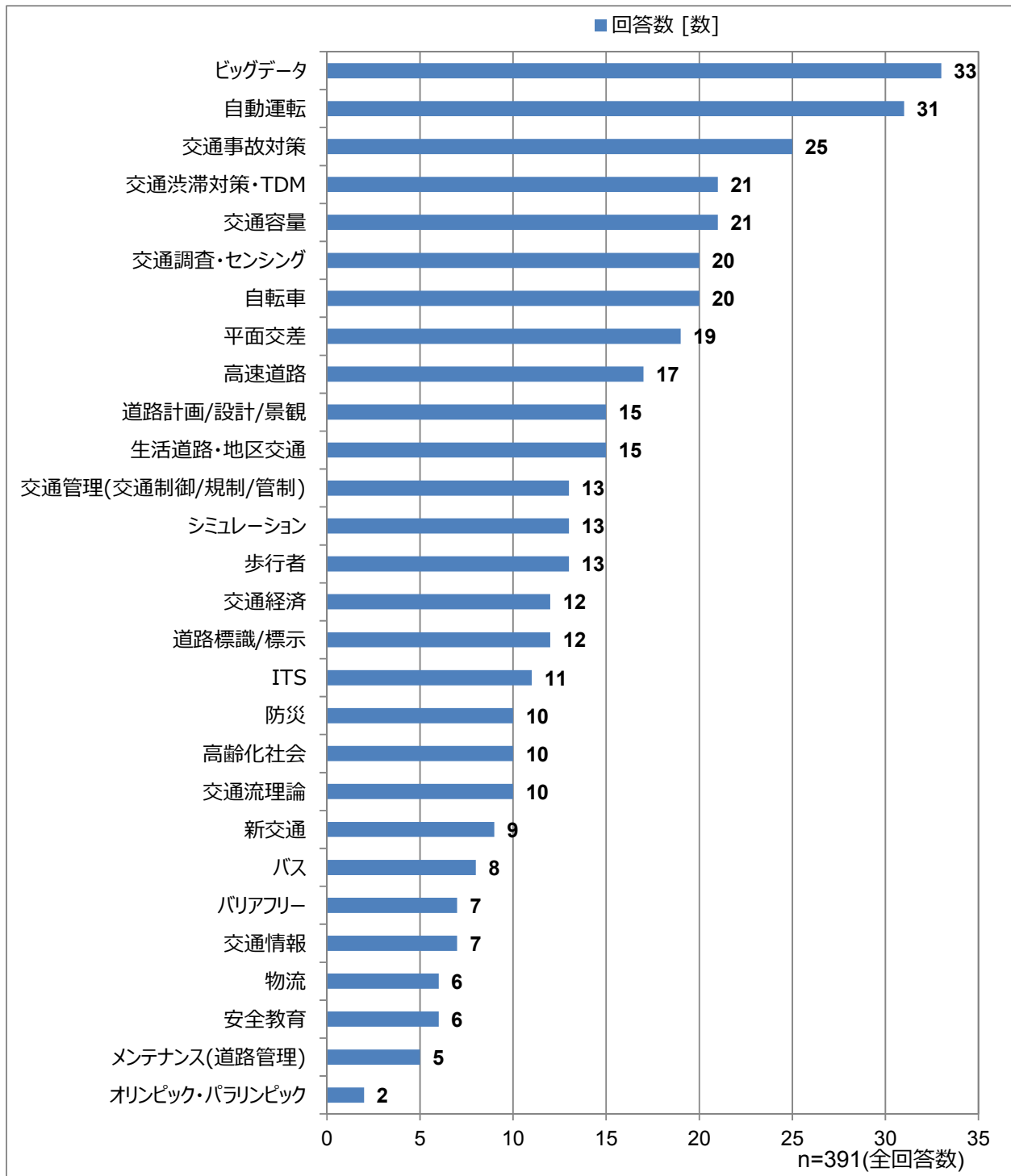
(3)低い満足度の理由

- ・ 様々な低い満足度の理由を挙げられていたが、低い満足度の理由を今後の課題としてキーワードを整理すると、以下になると考えられる。
 - －全体セッションでの委員会紹介内容の工夫(特別会員2名，非会員1名)
 - －新しい情報の提供
 - －内容の具体化
 - －セッションの進め方の改善
 - －実用性や今後の活用に向けた具体的方向性の提示

No.	低い理由	今後の課題
1	全体セッションの委員会活動の必要性は低いと思った。午後1番であり非常に眠かった。	全体セッションでの委員会紹介内容の工夫
2	全体セッションで委員会紹介は不要では？	
3	全体セッションで、交通工学研究会の説明があつたが、会場に割り振ってほしかった(全体でなくてもよいと思った)。	
4	新しい情報が少ない、交通「工学」との関係性が良くなかつた。	新しい情報の提供
5	新しい情報が少なかつた。	
6	内容が一般的・既発表、質疑応答がないか少なく、一方通行。	内容の具体化
7	内容が具体性に欠けていた。交通工学を感じる内容ではなかつた。	
8	内容がバラバラ、時間配分も不適切。	セッションの進め方の改善
9	テーマ設定が特定すぎて、議論が深くなっていくのよかつたが、その幅が狭くなりすぎた傾向があつた。議論の場では時にはテーマから離れて巨視的であってもよかつた。	
10	社内の業務研究発表会みただつた。	
11	自分自身のことですが、今後活かせるかわからなかつた。	実用性や今の活用に向けた具体的方向性等の提示
12	興味ある内容であり知識としては良いが、実用的でなかつた。	
13	研究途中のものでなく、成果を発表した方がよいと思う。	
14	もう一つの発表を掘り下げることをしてほしかった。	
15	内容に社会的意義がない。	
16	現地海外視察の報告が主であり、日本への適用、導入を考察したとき課題の説明が少なかつた。情報提供という視点からはgoodです。	

2.7 今後のセッションに対する希望テーマ

(1)全アンケート回答者を対象とした希望テーマ



- ・ その他の具体的な希望テーマとしては、次の表のような内容が挙がった。

No.	希望テーマ	回答数	備考
1	ラウンドアバウト	2	計画・設計の実務的な内容、調査方法、測量、設計(縦断設計、横断設計)など
2	A I	2	
3	道路空間の再配分	2	
4	信号制御	2	外国と比較して何が異なるのか、日本の交通ルールはガラパゴスではないのか。集中制御。
5	次世代モビリティ	2	
6	海外事例	2	
7	交通結節点	1	
8	産学官の仕組みづくり	1	物事を迅速に進める仕組みづくり
9	交通工学に副次的に影響する内容	1	無電柱化が、自転車、バアフリー、防災などに耐える影響
10	シミュレーション(応用)	1	シミュレーションとビックデータとの組み合わせ等の研究成果
11	インフラ老朽化対策	1	
12	5G	1	

2.8 講演資料のWebsiteからのダウンロードについて

- ・ 回答者の約8割(82.6%)が、講演資料をダウンロードし、プリントアウトかパソコンに保存して持参した。
- ・ 「ダウンロード予定/ダウンロードをした」も含めると、ほぼ全員の回答者が講演資料をダウンロードして活用したことになる。
- ・ 「(問9)ご意見」から講演資料のWebsiteからのダウンロードについてみると、資料のダウンロード化は良かったという意見が多くあった。なかには、「質問などについても事前に投稿できるようにしてほしい」、「期限を設定して当日のみの資料もダウンロードできるようにしてほしい」などの意見もあった。

- ダウンロードし、プリントアウトして持参した (36)
- ダウンロードし、パソコン等に保存して持参した (35)
- ダウンロードする予定/ダウンロードした (14)
- ダウンロードする予定はない (1)

()内数字：サンプル数

